

# 誠実で優しい音色を奏でる「ヒーリング・ミュージックの世界的第1人者」、ダニエル・コピアルカ

ダニエル・コピアルカという「ヒーリング・ミュージックの世界的第1人者」というアーティストの記者会見に行ってきた。

本来なら、「ヒーリング・ミュージックの第1人者」と書いてあるだけで、私は行かなかったと思う。なぜなら、破壊的な騒音の非リズム的な音の連続でない限り、例えばそれがハードなロックや前衛音楽であっても、誰かにとっては最良のヒーリング・ミュージックであり、逆に「これがヒーリング・ミュージックです」と、技術的にも精神的にも陳腐きわまりない音楽を聞かされるほど、苦痛なことはないからだ。

それならなぜ行ったか、というと、ホリスティック医学の研究者として、長年交流のある友人の大塚晃志郎氏から、「10年来の付き合いであるサンフランシスコ交響楽団の首席第2ヴァイオリニストであり、小澤征爾氏や、故武満徹氏の友人で、あの長野冬季オリンピックのオーケストラにも参加していた、実に素晴らしいアーティストなので、ぜひこの機会に湯川さんにご紹介したい」と言われたからだった。

会場は天王洲の海が見えるホテルの最上階。うらうらとしたお天気の良い午後で、マ

イク・スタンド無しに、優しく無駄のない音色で響いた「星に願いを」のトレモロや、幼かった頃のダニエル坊やに、やはりヴァイオリニストだった父上が弾いて下さったという

## 連載第65回

湯川れい子が紡ぐ、  
古今東西、ミュージックアーカイブ

# 音楽の旅

文・湯川れい子(ゆかわ れいこ)

本文に書いたダニエル・コピアルカの公演は、6月27日東京国際フォーラムのホールA、29日が国立京都国際会館のイベントホール。こんな広い会場に、果たしてどれくらいの人に来てくれるのかしら……と、主催者でもないのに心配になってしまう。もちろん私は行くつもりだけだ。

「ダニー・ボーイ」の折りにも似た静かな音色が、何の飾り気もてらいい無く、無垢な清らかさで心に染み渡った。

いわゆるテクニカルな力量で、ホールの最

上階まで響けと弾きまくるコンサート・ヴァイオリニストと違って、末期医療のターミナル・ケアや、癌などで入院している小児病棟の子供たち、出産におびえる妊婦などに向かい合っ、静かに細胞のひとつひとつに魂で語りかけるような、この上なく誠実で優しい音色なのだ。

記者会見の席上で、「ヒーリング・ミュージックとは何か?」と訪ねられたコピアルカ氏は、「あまりにも多岐にわたる広大な、人類にとって古い世界なので、ひとくちには言えないが、私がなぜ演奏をするかと聞かれば、最終的にはそれが平和につながるからだ」と、遠慮がちに語っておられたのが、実に誠実に印象的だった。

聖路加国際病院名誉院長の日野原重明先生が理事長の日本音楽療法学会で、私も日野原先生と共に音楽療法士の国家資格化を実現するべく努力している理事の1人だが、音楽に質の良し悪しはあっても、音楽はすべて誰かにとってのヒーリング・ミュージックだと思っている。すでに素晴らしい実績のあるコピアルカ氏だが、6月末の日本公演は広い会場だけに、どう聴かせてくれるのだろう。